

第17. その他(水産業関連取組事例)

(1) 日高管内漁業士会の活動

地域漁業の振興にあたり、将来的に漁村地域の中核となり得る青年漁業者、また、漁村青少年の育成などに指導的な役割を果たしている全道の各漁業者に対して、北海道知事より「北海道漁業士」としての称号を付与しています。現在、日高管内には16名の漁業士がおり、日高管内漁業士会として、地域の活性化、漁業の振興を目的に活動を行っています。

令和3年度は令和2年度に引き続きコロナ禍にあり、また、9月頃から日高管内をはじめとする道東太平洋沿岸において発生した、新たな赤潮原因プランクトンによる赤潮の影響により管内水産業が未曾有の危機を迎えました。

しかし、このような厳しい状況を打破するべく、当会では会員の皆様にご協力いただきながら少しずつ活動を実施しました。

○令和3年度の主な活動

・第16回日高・胆振太平洋海域漁業士交流研修会(11月)
平成15年より胆振管内漁業士会と行っている交流研修会を新ひだか町静内コミュニティセンターにて行いました。
コロナ禍における水産物のPRに関する取り組みや昨今の漁業被害の状況などについて意見交換を実施しました。

・日高管内漁業士会Web研修会(3月)
国立研究開発法人水産研究・教育機構様にタコの養殖技術開発の現状や磯焼け対策、赤潮についてリモート会議システムにてご講演いただきました。

(2) 新型コロナウイルスや赤潮が水産業に与えた影響とその対策

令和2年に引き続き新型コロナウイルス感染症により外食産業における消費の低迷が続きました。また、9月には、道東太平洋沿岸の広範囲で過去に例がないほどの赤潮が発生し、ウニやサケが大量にへい死するなど水産物に甚大な被害が生じました。

そこで日高振興局では、管内漁業者・漁協・水産加工業を応援し、地域を盛り上げる取り組みとして「日高の海の幸フェス」を開催しました。令和4年1月から第1弾の取り組みとして、漁業者・漁協・沿海町など地域と連携して、日高管内で水揚げされている新鮮な魚を使用した料理を毎日道庁のSNSで発信する日高の海の幸料理365日投稿チャレンジを行いました。



投稿はこちらのQRコードから

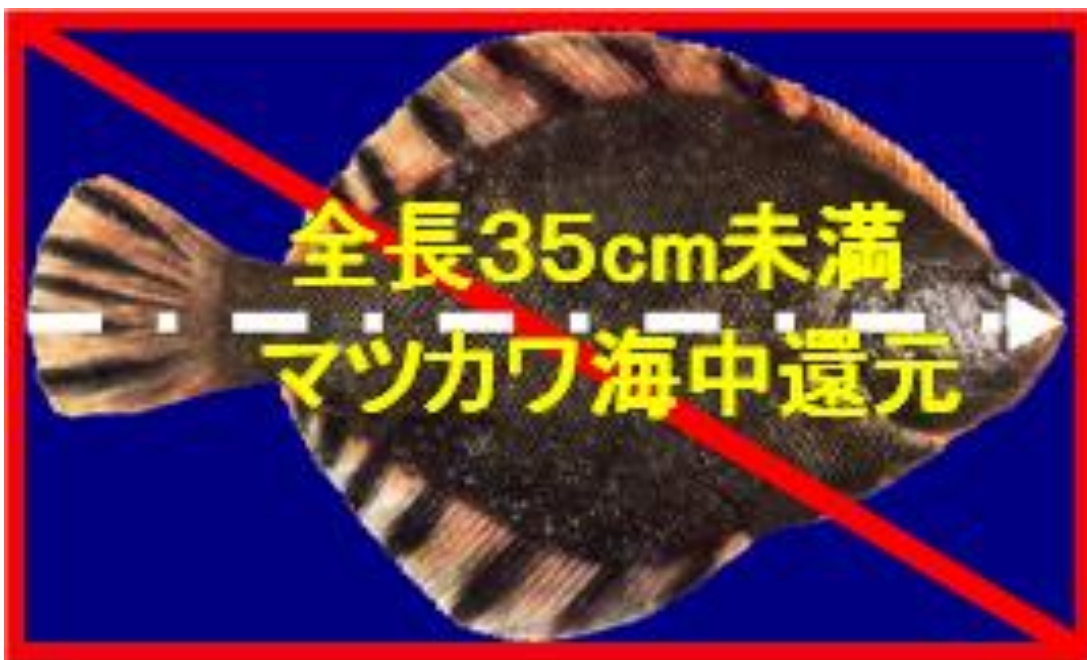
(3) 王鰈(マツカワ)

当管内では、平成5年から試験的に種苗放流が開始され、放流数の増加に伴って漁獲も右肩上がりとなっています。

平成18年には北海道栽培漁業拠点センター（伊達市、えりも町）の供用が開始され、えりも町から函館市南茅部までのえりも以西太平洋海域では135万尾の種苗放流を行い、150tの資源造成を図る計画となっており、うち当管内各地より45万尾（令和3年度実績・標識及びイベント含む）が放流されました。

《マツカワ資源管理》

マツカワの資源造成を図る上で、放流後のマツカワ稚魚を適切に保護・管理・育成するため、函館市からえりも以西の太平洋海域において、「全長35cm未満のマツカワの海中還元」を主な内容とした海区漁業調整委員会指示が発動され、漁業者はもとより遊漁者も対象とした資源造成に取り組んでいます。



全長35cm未満のマツカワを採捕した時は、速やかに海中へ戻して下さい。

